

2025年4月24日

各 位

2025年12月期第1四半期連結決算

- Core 売上収益 2,885 億円（前年同期比+21.8%）、Core 営業利益 1,395 億円（同+36.6%）、Core 四半期利益 992 億円（同+30.5%）
 - ・ 好調な海外輸出を主因に増収増益の決算
- 研究開発活動は、自社創製品の開発早期・後期とも順調に進展
 - ・ 早期開発において、NXT007 では PoC を確認した他、複数の自社創製品で新たな臨床試験を開始
 - ・ 後期開発において、経口 GLP-1 作動薬 orforglipron が 2 型糖尿病に対する第 III 相臨床試験で主要評価項目を達成、NEMLUVIO が欧州で承認を取得

[中外製薬株式会社](#)（本社：東京、代表取締役社長 CEO：奥田 修）は、本日、2025年12月期第1四半期連結決算を発表しました。

代表取締役社長 CEO の奥田 修は、「2025年第1四半期は前年同期比で増収増益と、好調なスタートとなりました。国内では薬価改定や後発品浸透の影響を受けたものの、新製品であるフェスゴ[®]とピアスカイ[®]、主力品のバビースモ[®]が好調に推移し、海外では主力品であるヘムライブラ[®]とアクテムラ[®]の輸出が大きく増加したことで全体の成長を大きくけん引しました。開発パイプラインの進捗としては、ロシュからの導入品、ルンスミオ[®]が再発又は難治性の濾胞性リンパ腫を適応症として国内で販売を開始しました。自社創製品では、ガルデルマ社に導出した NEMLUVIO[®]（nemolizumab）が欧州で承認を取得、イーライリリー社に導出した orforglipron は 2 型糖尿病に対する第 III 相臨床試験で主要評価項目を達成し、それぞれ大きな進展を果たしました。また、最も重要な開発品の一つである NXT007 が血友病 A に対して PoC^{*}を取得し、最速での第 III 相試験開始に向け準備を加速していきます。加えて、エンズプリング[®]、RAY121、MINT91 の 3 つの自社創製品が新たな臨床試験を開始しました。引き続き、世界中の患者さんに新たな価値を提供するため、当社独自の革新的な医薬品開発を一層強く推進してまいります」と語っています。

<2025年12月期1-3月 Core 業績概要>

2025年12月期第1四半期の業績（Core ベース）は、海外売上的大幅な伸長により、前年同期比で売上収益が 21.8%増、営業利益が 36.6%増と増収増益の決算でした。

売上収益のうち、国内製商品売上高は 0.2%減と前年同期並みでした。オンコロジー領域は、新製品フェスゴが好調であった一方、フェスゴの浸透に伴う同薬効成分であるパージェタ[®]、ハーセプチン[®]の減少や、主力品アバスチン[®]などが薬価改定や後発品浸透の影響を受けたことにより、前年同期比で 5.3%の減収でした。スペシャリティ領域は、主力品バビースモの好調な推移に加え、新製品ピアスカイの好調な市場浸透により、前年同期比で 6.2%の増収となりました。

海外製商品売上高は、ロシユ向けのヘムライブラ、アクテムラ輸出が大幅に増加し、54.7%増と前年同期を大きく上回りました。その他の売上収益は、ヘムライブラに関するロイヤルティ収入が増加したものの、一時金収入の減少等により 11.7%の減収でした。

製商品原価率は、製品別売上構成比の変化などにより前年同期比で 1.8 ポイント改善し、33.7%でした。研究開発費、販売費及び一般管理費は前年同期並みでした。その他の営業収益（費用）は 3 億円の収益となりました。これらの結果、Core 営業利益は 1,395 億円（+36.6%）となりました。

<研究開発の状況>

研究開発活動では、開発早期・後期とも順調に進捗しました。

当社の中長期の成長けん引を担う自社創製品の早期開発では、エンズプリング（デュシェンヌ型筋ジストロフィー）が第 II 相臨床試験を開始した他、RAY121 および MINT91（固形がん）がそれぞれ新たに第 I 相臨床試験を開始しました。また、NXT007（血友病 A）が重要なマイルストーンである PoC 取得を達成しました。ロシユ以外の第三者に導出した自社創製品も順調に進捗しており、イーライリリー社に導出した経口 GLP-1 作動薬 orforglipron は 2 型糖尿病の第 III 相試験で良好な結果が得られました。また、ガルデルマ社が海外で開発を進めている NEMLUVIO は、欧州において中等度から重度のアトピー性皮膚炎および結節性痒疹に対して承認を取得するなど、後期開発での進展がみられました。

ロシユからの導入品では、ルンスミオ®が再発又は難治性の濾胞性リンパ腫の治療薬として国内で販売を開始しました。また、テセントリクが胞巣状軟部肉腫の適応拡大で承認を取得した他、バビースモ、エブリスディ®が新たな剤型追加で承認を取得しました。アルツハイマー病に対し開発中の trontinemab は第 I/II 相臨床試験で良好な結果が得られました。

* Proof of Concept（研究段階で構想した薬効が臨床でも有効性を持つことを実証すること）

【2025 年 12 月期 1-3 月実績】

（億円）	2025 年 1-3 月	2024 年 1-3 月	前年同期比
連結損益（Core 実績）			
売上収益	2,885	2,369	+21.8%
製商品売上高	2,597	2,045	+27.0%
その他の売上収益	287	325	△11.7%
営業利益	1,395	1,021	+36.6%
四半期利益	992	760	+30.5%
連結損益（IFRS 実績）			
売上収益	2,885	2,369	+21.8%
営業利益	1,367	999	+36.8%
四半期利益	972	744	+30.6%

<製商品売上高の内訳>

(億円)	2025年 1-3月	2024年 1-3月	前年同期比
製商品売上高	2,597	2,045	+27.0%
国内	1,030	1,032	△0.2%
オンコロジー領域	531	561	△5.3%
スペシャリティ領域	499	470	+6.2%
海外	1,567	1,013	+54.7%

<オンコロジー領域（国内） 売上上位5品目>

(億円)	2025年 1-3月	2024年 1-3月	前年同期比
テセントリク	138	145	△4.8%
ポライビー	75	74	+1.4%
アレセンサ	75	66	+13.6%
フェスゴ	68	32	+112.5%
アバスチン	61	87	△29.9%

<スペシャリティ領域（国内） 売上上位5品目>

(億円)	2025年 1-3月	2024年 1-3月	前年同期比
ヘムライブラ	126	125	+0.8%
アクテムラ	109	102	+6.9%
エンスプリング	61	58	+5.2%
バビースモ	54	40	+35.0%
エブリスディ	34	34	+0.0%

【研究開発活動の進展】（2025年1月30日～2025年4月24日）

2025年4月24日現在

発売	ルンスミオ	過去に少なくとも2つの標準治療を受けたことのある再発又は難治性の濾胞性リンパ腫	2025年3月（日本）
承認	NEMLUVIO® (ネモリズマブ)*	中等症から重症のアトピー性皮膚炎および結節性痒疹	2025年2月（欧州）
	テセントリク	胞巣状軟部肉腫	2025年2月（日本）
	バビースモ	剤形追加（プレフィルドシリンジ）	2025年3月（日本）
	エブリスディ	剤形追加（錠剤）	2025年3月（日本）
申請	セルセプト	難治性のネフローゼ症候群（公知申請）	2025年3月（日本）
試験開始	RAY121	－	第I相（2025年3月）
	エンズプリング	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	第II相（2025年4月）
	MINT91	固形がん	第I相（2025年4月）
	抗TL1A抗体/RG6631	潰瘍性大腸炎	第III相（2025年4月）

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売） *海外導出先のGalderma社が実施

Readout	orforglipron*	第III相ACHIEVE-1試験（2型糖尿病）：主要評価項目達成	2025年4月
	ルンスミオ	第III相SUNMO試験（再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫）：主要評価項目達成	2025年4月
PoC確認	NXT007	血友病A	2025年2月
パイプライン除外	アバステン	小細胞肺癌（一次治療、BEAT-SC試験）：開発中止	
学会発表	バビースモ	網膜色素線条を対象とした国内第III相NIHONBASHI試験のデータ	2025年4月
	trontinemab	アルツハイマー病を対象とした第Ib/Ia相Brainshuttle™ AD試験のデータ	2025年4月
希少疾病用医薬品指定	テセントリク	切除不能な胸腺がん	2025年3月

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売） PoC：Proof of Concept *導出先のEli Lilly and Companyが実施

Core 実績について

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とは、IFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであります。なお、当社が非経常事項と捉える事項は、事業規模や範囲などの違いによりロシュと判断が異なる場合があります。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

上記本文中に記載された製品名は、法律により保護されています。

以上